

環境の時代と、当社の環境技術戦略



執行役員

田邊 弘住

新世紀を迎えて早くも4年。Y2K(2000年問題)の危機をくぐり抜けた世界は、今また大きな変化の中にあります。高度情報化社会の到来が実感できるようになり、ユビキタス社会の姿が現実味を伴って思い浮かべられるようになってきました。ICチップなど、ナノテクノロジーの開発・活用によってあらゆるものがネットワーク化される社会は、私たちに快適な生活環境をもたらすものとして大いに期待されるところであります。

しかし、快適な生活環境の実現にとって、より根元的に重要なことにエネルギー問題があります。従来の石油依存型から天然ガス、風力、バイオマスと、エネルギー源は多様化の傾向にはありますが、世界は依然としてエネルギー問題で大きく揺れ動いています。エネルギー自給率が約20%と世界の先進国の中でもとりわけ低いわが国の場合、海外にその多くを依存していることを認識すれば、諸外国との共生は極めて重要なこととなります。特にエネルギーを多く消費するわが国としては、このエネルギー問題を環境問題として強く認識し、環境負荷低減技術、耐久性向上技術の開発・普及に努め、地球環境の保護、世界の人々の生活環境の確保に貢献しなければなりません。

21世紀は正に環境の世紀といわれています。わが国も今までにない厳しい内容の改正大気汚染防止法、即ち「VOC規制」を施行しようとしています。塗料業界も多大の影響を受けることとなりますが、当社は既に「世界に通じる環境対応技術」を目指して積極的に研究開発を進めてまいりましたので、その真価を発揮するチャンス到来と申せましょう。当社の環境技術戦略の第一は揮発性有機化合物(VOC)排出抑制技術ですが、これについては水系塗料、粉体塗料等の開発に注力し、遂にVOCゼロを目指した極限技術の実現を果たしました。今後もこれに飽くことなく、更にその先の技術を求めていく所存です。環境技術戦略の第二は社会インフラをはじめ各種素材の塗料による耐久性向上技術であります。これについてはLCC(ライフサイクルコスト)の視点から、環境負荷低減機能としての評価技術を確立することが重要課題であります。塗料における環境技術の向上は、塗料メーカーのみならず、原料メーカー、ユーザーをはじめ直接・間接に関与いただいている様々な分野の方々のご理解、ご協力があつて為し得るものであると認識いたしております。

環境を重視する当社の商品開発姿勢をご理解いただけるものと期待し、ここにコーティング技報第4号をお届けする運びとなりました。本誌が当社の商品と技術をご活用いただく方々のためにお役立ちできれば、望外の喜びであります。